

# ALESCO

No.14  
March, 2016

アレスコ【ALESCO】とは古代ラテン語で「成長する、発展する」という意味です。



## INDEX

写真で綴る新入生宿泊研修会 .....	02
保健学科長挨拶 .....	05
卒業生だより(第5回) .....	06
看護師として活躍する卒業生	
臨床検査技師として活躍する卒業生	
講座紹介 .....	08
基礎看護学講座	
成人・老人看護学講座	
母性・小児家族看護学講座	
地域・精神看護学講座	
生体制御学講座	
病態検査学講座	
トピックス .....	11
「看護学・保健学地域チーム(医療)実習」	
～日野オータムセミナー2015～	
「まちの検査室-見て防ごう!血管・筋肉エコーで介護予防-」	
人材育成:認知症専門検査技師、表彰:平成27年度科研費審査委員表彰	12
研究紹介:情報通信技術を応用した在宅酸素療法 .....	13
地域志向教育研究事業における教員の教育・研究活動(平成25～27年度)	14
アレスコ・ガーデニングクラブの活動 .....	16
平成27年度卒業研究演題一覧 .....	17
平成28年度学年暦、学級委員 .....	18
平成26年度後援会事業報告、平成27年度後援会役員名簿 .....	19
平成27年度後援会事業計画、編集後記 .....	20



## 写真で綴る新入生宿泊研修会

これは、大学入学後様々な悩みを抱きやすい新入生を、早く大学生活に慣れるように支援するための宿泊研修行事ですが、同時に「大学入門ゼミ」という必修の授業科目でもあります。「大学入門ゼミ」では、課題の発見・探求に必要な基礎知識・技法を学ぶことによって、自主的・継続的な学習能力を養うとともに、教員と触れあい、学生が互いに学び合うことによって、大学生活を営む上で必要なコミュニケーション能力・チームワークを培います。

平成27年4月18日(土)・19日(日)の1泊2日で、保健学科看護学専攻、検査技術科学専攻合同の研修を「大山青年の家」で実施しました。最初は緊張した顔つきでしたが、班に分かれて話をしたりして、少しずつ楽しそうな表情になってきました。その一端をスナップ写真で紹介いたします。



11:00 大山青年の家に到着！お天気で気持ちいい！！



到着後 大山青年の家のオリエンテーション！  
生活信条：自律、向上、友愛、奉仕



昼食 カレーライスの盛り付け



相手にやってもらいたいことを  
お互いにしてもらおう!!  
例えば、マッサージとか・・・

そこ、  
気持ちいい!!

午後 グループワーク

2年生のアドバイザーの方に  
大学の様子や過ごし方のコツを教えて  
もらいました。湖山キャンパスでは  
他学部と交流した方が大学生活らしくなる・・・  
サークル新歓(新入生歓迎会)は  
色々行ってみた方がいいらしい・・・



グループワーク 課題:大学生活をどう過ごすか



人と人の心をつなぐ架け橋に  
なれるようになるためには  
どうしたらいいのかな・・・  
私の場合・・・

夕食後 高塚先生のヒューマン・コミュニケーション講座

昨日は疲れて良く寝た。  
ラジオ体操、久しぶり!!



2日目 7:00 ラジオ体操・・・健康的!!



お世話になった大山青年の家の掃除、片付け



ここは生理検査室です。  
心電図や超音波検査をする  
お部屋があります。

2日目は鳥大附属病院の施設見学



他学部の人と交流して  
大学生活を楽しんで!!  
でも単位は落とさないように。  
米子キャンパスで見かけたら  
声をかけてね!!

研修最後。2年生のアドバイザーの先輩から  
エールをもらいました。



少しずつ  
大学生活に慣れてきましたが、  
先輩達に色々話が聞けてよかったです。  
単位を落とさない程度に大学生活を  
楽しめます!!

1年生からアドバイザーにお礼



これからみんなで充実した大学生活を過ごしていきます!!

保健学科長挨拶

## 保健学科の使命とは

保健学科長  
廣岡 保明



鳥取大学医学部保健学科のルーツは大正14年の西伯郡米子病院の産婆養成所にさかのぼります。その後、米子医学専門学校や鳥取大学医療技術短期大学部を経て平成11年10月に保健学科に改組され、平成28年3月には第13期卒業生を送り出すこととなりました。その間、多くの看護師、助産師、保健師、臨床検査技師が山陰地方を中心に日本全国において医療、福祉、保健、行政などの広い分野で活躍することができましたのも、ひとえに物心両面で支えていただいた保護者、卒業生、後援会、同窓会そして関係各位の皆様方のご協力、ご支援のおかげと深く感謝いたしております。

さて、保健学科の使命は言うまでもなく教育・研究にあります。最も重要なものとしては質の高い専門職業人の育成であることは間違いありません。さらに、地方大学の使命として必要不可欠な地域貢献も、人材育成や研究を通して達成すべき重要な使命となってきました。そのため、平成25年に文科省で策定された鳥取大学医学部保健学科のミッションの再定義においても、『地域の健康課題に対応した、高いコミュニケーション能力と臨床実践力を備えた全人的医療人である専門職業人の養成』が挙げられています。そこで、本稿では現在の保健学科で行われている人材育成や地域貢献についての概略をご説明するとともに、本冊子(アレスコ14号)にはその詳細の一部を記載いたしました。

- (1)卒業後も患者さんや他職種の医療人との連携をスムーズに取れることを目的に、現在行っているコミュニケーション科目に加え、卒業前の4年生に医療コミュニケーションセミナーを開始しました。
- (2)卒業後に臨床の現場に出ると、習っていたことと全く異なる環境となりギャップが生じ離職する場合があります。そのギャップをなくすためのシミュレーション教育を積極的に取り入れています。
- (3)大学院教育では【がん看護専門看護師】、【認知症予防専門士】、【認知症領域検査技師】のコースを新たに設置し、既存の【がん専門臨床検査技師(超音波検査士、細胞検査士)コース】とともに、積極的に専門資格取得を支援し、より質の高い看護師、臨床検査技師の育成に注力しています。
- (4)地域志向教育として、医学生、看護学生、検査学生などが協働した実習や地域貢献事業を行い、チーム医療の重要性、地域に必要な支援等についての議論を深めています。
- (5)地域貢献の一貫として【乳がん看護専門看護師教育課程】を医学部附属病院医療スタッフ育成センターに設置し、その運営・実務を行っております。また、同センターに設置した【在宅看護推進のための看護師養成事業】を鳥取県と連携し、安心して任せられる訪問看護師等の育成に努めています。また、【超音波検査士、細胞検査士】の専門資格取得支援を行うため、講習会とともに資格認定試験の試験対策セミナーなども行っています。

以上のような人材育成、地域貢献と共に、保健学科の将来を見据えた入試改革や教員免許課程の設置について議論を深めてきました。入試に関しては、保健学科の編入学試験の定員削減(看護:10名→2名、検査5名→0名)を行い、編入学生育成に注いでいた力を上記の種々の人材育成や地域貢献に振り向けることにしました。教員免許に関しては、養護教諭1種免許の申請に向け、医学部生命科学科の理科教諭免許申請と歩調を合わせ、多くの難問を乗り越え始めております。

保健学科の現況を簡単に述べさせていただきました。鳥取大学医学部保健学科を卒業しました、とすべての学生に胸を張って言ってもらえるような保健学科を構築していく所存でございます。保健学科の今後の飛躍のため、皆様方のさらなるご指導、ご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

## 卒業生だより 看護師として活躍する卒業生

### 長谷川 慶幸 看護学専攻第8期生

こんにちは。私は看護学専攻第8期生の長谷川慶幸です。私は大学卒業後、鳥取大学医学部附属病院に就職しました。入職した当初は総合周産期母子医療センターの新生児部門に配属となり、新生児集中治療室(NICU)、回復期病床(GCU)で勤務し、現在は小児総合病棟で勤務しています。

最初に配属となった総合周産期母子医療センターは、男性看護師はおらず、就職したてで、しかも母親と子ども、家族をケアしていくことができるだろうかと不安いっぱいでした。しかし先輩方や同期の支えもあり、「父親への育児指導」など同性を活かした役割を見つけ、看護師としてのやりがいを感じるようになってきました。現在は小児総合病棟へ移り、様々な病気を抱える子どもと家族へのケアに取り組んでいます。将来は看護学生の指導を行いたいと考えており、そのために現在は鳥取大学大学院博士前期課程へ進学し、仕事と勉強の日々を過ごしています。



### 谷口 菜穂 看護学専攻第11期生

みなさんこんにちは。看護学専攻第11期生の谷口菜穂です。卒業後鳥取大学医学部附属病院に就職し、女性診療科・泌尿器科の看護師として働き始めて2年が経とうとしています。私の働く病棟は、術前・術後の急性期看護から、がんに対する化学療法・放射線療法などを行う慢性期の患者さんの看護、さらに終末期を迎えた患者さんの看護まで、あらゆる分野の知識と看護技術が必要となるところです。先輩にご指導をいただくときや、勉強が必要なおともまだまだたくさんあります。しかし患者さんと関わりのなかで、自分の行った看護が患者さんの回復や穏やかな生活の手助けになっていると思えるとき、とてもやりがいを感じています。

臨床に出て最初に感じたことは、毎日多くの患者さんと関わるため、じっくり一人一人の思いを聞くことは難しいということでした。関わる患者さんが基本的に一度に一人であった学生時代の実習と違い、じっくり話を聞きその人を知ることには苦労しました。しかしそんなときこそ思い出したのが実習でした。悩んだときに、学生の時に患者さんから学ばせてもらったことを振り返ると、はっと気づかせてもらえます。看護記録も、学生の時に悩んで苦しんで書いていましたが、そうやって学生時代に思考をしっかりと学んだことで、今忙しい中でも患者さんそれぞれの問題や強みを考えることができているのではないかと思います。また病院で働くなかでは、患者さんだけでなく多くのスタッフの方とも関わりがあります。時には患者さんの方針を話し合う合同カンファレンス等も開催され、看護師の立場から患者さんの姿を伝え、多職種で話し合いを行うこともあります。そんなとき、学生時代の実習や部活動、行事を通して培った、自分の意見を伝えることや話し合っ決めていく力が活かされています。このように学生時代の多くの経験や学びが、看護師として働く今につながっていると感じています。まだまだ多くの困難や悩みにぶつかることがあると思います。そんなときこそ自分が成長できるチャンスだと思って、これからもがんばっていきたいです。



## 卒業生だより 臨床検査技師として活躍する卒業生

### 服部 博明 検査技術科学専攻 第7期生

こんにちは。私は検査技術科学専攻第7期生の服部博明と申します。大学卒業後、大学院に進学し、超音波検査や神経学的検査を学んだ後、地元の松江市立病院に就職しました。

実は私は色覚異常者であり、就職してから色々大変ではありましたが、現在配属されている生理部門で頑張っております。生理部門では心電図検査や肺機能検査、超音波検査、神経学的検査など基本的な検査をはじめとして、心臓カテーテル検査や術中モニタリング検査なども行っております。私は現在、正規職員として部門で2番目に年長の立場になりました。そのため、どの検査も把握し、精度が落ちないように学び続けること、どの検査機器のトラブルにも対応できることが求められています。その第一歩として2015年にCVT(血管診療技師)の資格を取得しました。今は超音波検査士の資格取得に向けて勉強中です。

検査技師にとって最も大切なのはどれだけ「人」のことを考えられるかということだと思います。これから、資格の取得や技術の向上を図りながら、「人」を相手にしている職業であることを忘れないようにしたいと思います。



### 木村 和幸 検査技術科学専攻 第9期生

検査技術科学専攻第9期生の木村和幸です。約3年前に卒業し、鳥取市の鳥取赤十字病院に就職しました。現在は生化学検査、免疫検査、そして細菌検査に携わっています。多くの業務を任されているので、やりがいのある充実した日々を過ごすことが出来ています。去年の11月に第48回中四国支部医学検査学会が米子で開かれました。学会では発表をさせていただくとともに、運営側としてもお手伝いもさせていただきました。初めて経験することが多く、とても勉強になりました。次に鳥取県で開催されるのは9年後になります。その時はこの経験を活かしてよりよい学会にしたいと思っています。また、当院は新棟建設中で今年の夏には検査室が移動となります。とても大変だとは思いますが、なかなか経験できることではないので楽しみにしています。ぜひ学生のみなさんにも新しい病院、そして検査室を見学しにきていただくと嬉しく思います。



# 講座紹介

## 基礎看護学講座

基礎看護学は看護学の基盤となる学問・教育の領域であり、本講座では看護学原論、看護学方法論、生活援助論、疾病論、生命倫理学、死生学、医療英語など多様な科目を幅広く系統的に開講しています。

基礎看護学分野では、疾病が多様化、複雑化、細分化し、これらに適切に対応できる看護技術と人間性や倫理性はもとより、成長・発達していく人間の生活そのものが、その人の健康の保持・増進・回復に役立つものであるよう援助する看護のあり方を追究しています。



2年生 生活援助論演習(洗髪)



2年生 生活援助論演習(寝衣交換)



1年生 看護学方法論(グループワーク)



4年生 課題研究発表会



演習風景:臨地実習前の3年生に4年生が技術演習のサポートをしています!

## 成人・老人看護学講座

### ■成人看護学:慢性期看護・急性期看護

本講座の成人看護学の講義や実習は、慢性的に経過する病(糖尿病など生活習慣性の病気、がん、難病、呼吸器系、心臓・血管系の病気など)を持つ人に対する慢性期看護と手術や救急医療を必要とする人に対する急性期看護の2領域を中心に構成されています。対象の個別性に合わせ、健康レベルや生活の質の向上を目指して、その看護に必要な専門知識と技術を講義や実習を通して学びます。

### ■老年看護学

老年看護学では、高齢者を取り巻く社会状況や発達課題、加齢に伴う身体的・精神的変化、疾患罹患に及ぼす影響を把握し、生活機能適応や自立に向けての看護を学習します。また老年看護学実習を通して、要介護状態高齢者、認知症高齢者、地域・在宅で生活されている高齢者やそのご家族への看護援助を考察し実施することで、高齢者のQOLを支える看護の実際を体験します。



高齢者施設実習の様子



## 母性・小児家族看護学講座

母性・小児家族看護学講座は、母性家族看護学(助産学コースを含む)と小児家族看護学の分野があります。

母性家族看護学(助産学コースを含む)では、女性の一生を性と生殖の視点から見つめ、その年代に応じた健康課題を講義し、必要な看護活動について学習します。実習は母性家族看護学実習2週間(全学生対象)と助産学実習(助産学コース学生のみ)からなります。小児家族看護学分野では、子どもの成長や発達及び家族を含めた環境を理解し、その知識を基盤として、小児特有の健康課題とその看護について学習します。小児家族看護学実習3週間(全学生対象)で、保育園と附属病院小児総合病棟で実施します。



母性家族看護学実習(妊婦の腹部触診)



母性家族看護学実習(新生児の看護)



小児家族看護学実習(小児看護の教育教材の作成)



助産診断技術学実習(分娩介助)

## 地域・精神看護学講座

地域・精神看護学講座は、在宅看護学、精神看護学、公衆衛生看護学の3分野があります。「地域で暮らす人を支える看護活動」これが本講座の特徴ではないかと思います。地域には、健康な人、在宅で療養している

人など、様々な健康レベルの人が生活しておられます。私たちは、病気からの回復だけでなく、予防や健康増進、疾病や障がいがあってもその人らしく生活できるよう支援するという、地域における看護の魅力を学生に伝えていきたいと考えています。

近年、過疎地看護演習、看護課題研究、統合実習など教育として、また、地域志向の研究、調査として、生活習慣などの健康課題、地域における防災対策等などに取り組んでいます。学生と共に企画から、実態調査や、座談会、学習会等、住民さんと共に活動します。そして、地域づくり活動の実際、研究の基礎理解、コミュニケーション力の向上など、地域組織との連携のあり方など、体験を通して、学ぶことを重視しています。



学生と地域の方で防災マップづくり



健康相談会「けんこう茶屋」

# 講座紹介

## 生体制御学講座

生体制御学講座は、主に基礎系専門科目と全学共通科目(物理・化学・情報)を担当しています。たとえば、人体の構造と機能や人体組織学(解剖学系)、健康と生体情報、生理情報検査学(生理学系)をはじめ、栄養と代謝、くすりと作用など基礎医学系の科目を担当しています。また、分析検査学、医用工学、情報科学、検査機器論、管理システム学など臨床検査の基礎となる科目や、医療安全管理学、環境衛生学、医療データ解析学、遺伝子診断学など、臨床検査技師業務から先端領域まで幅広い内容を扱っています。一部の科目は、湖山キャンパスの1年生のときにあります。看護学専攻の学生さんも受講します。

所属教員は、神経解剖学・神経発生学、食品化学、ニーマンピック病C型などの遺伝性疾患の病態生理、アルツハイマー病の診断法・予防、タンパク質・核酸・薬物の構造機能計算などの研究に取り組んでいます。学部・大学院での教育をとおして、確かな科学的思考力を有した実行力のある人材を養成したいと考えています。



人体組織学実習風景



分析検査学実習風景

## 病態検査学講座

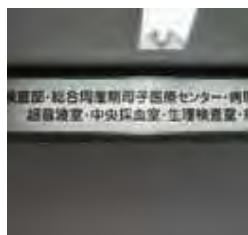
病態検査学講座における学部教育の特徴に、臨床検査技師教育の集大成である科目「臨床実習」を医学部附属病院検査部等と一緒に担当していることが挙げられます。臨床実習は5~6名のグループに分かれて4年生前期に14週間実施します。実習前には医療コミュニケーション等を学ぶ演習も行います。実習は医学部附属病院検査部を中心として病理部、放射線部、薬剤部で行います。また、山陰労災病院、博愛病院、米子医療センター等の外部病院でより実践的な臨床検査現場を体験します。様々な実習病院や施設を経験させることにより臨床検査技師として必要な知識と技術のみならず、チーム医療のあり方や患者さんとの接し方も含めて指導しています。

病態検査学講座教員のほとんどは臨床検査技師、医師などの免許を有しており、臨床での経験をふまえた教育を行っています。医療職の養成では病院等における実習時間数が増加傾向にあり、医療現場と協力した「臨床実習」はますます重要になります。

また、大学院教育では医学部医学科の講座や附属病院診療科等と連携して臨床的な研究課題に取り組んでいます。



アレスコ棟から見た医学部附属病院  
(実習病院が近いのは恵まれています)



医学部附属病院検査部での実習風景  
(白衣と実習用靴を着用しています)

## 「看護学・保健学地域チーム (医療) 実習」 ～日野オータムセミナー2015～

鳥取大学医学部が実施する地(知)の拠点整備事業では地域(自治体や地域の医療を担う関連病院等)と連携し、地域医療の場での学びを通し、地域で活躍できる人材育成を目指しています。

平成26年6月、日野病院内に地域医療教育と総合診療医育成、看護師などコメディカル育成や多職種連携の教育拠点として鳥取大学地域医療総合教育研修センターが開設されました。そこで、看護学生と医学生の合同実習プログラムを作成、10月に3日間実施し(延べ14名参加)、地域に出かけ、学内だけでは学び取ることが難しい体験をし、お互いに視点の違いに気づき、多くの学びがありました。



地(知)の拠点大学による  
地方創生推進室  
特命助教 新宮 万鯉子



家庭訪問 一人暮らしの方に地域での生活の様子や健康についてお話を伺いました。



ぼかぼか教室(町介護予防事業)  
地域の方とノルディックウォークを体験。

## 「まちの検査室-見て防ごう! 血管・筋肉エコーで介護予防-」

我々は、地域・精神看護学講座の教員と合同で、昨年度より地域住民の健康促進を目的とした企画を実施しております。今回は昨年10月に開催された、米子市主催の「ふれあい健康フェスティバル2015」に参加した時の様子をご紹介します。「まちの検査室-見て防ごう! 血管・筋肉エコーで介護予防-」というテーマで、血圧、体脂肪、BMI、血圧脈波、頸動脈エコー、筋力測定、筋肉エコーなどを実施しました。教員3名の他、看護学専攻3年次学生3名、検査技術科学専攻3年次学生4名、保健学専攻大学院生8名の計18名が参加しました。

学生が主体となり、リハーサルから当日の準備、受付、誘導、検査実務をしてもらいました。住民の皆様笑顔で丁寧に説明している学生の姿を見て、とても頼もしく思いました。検査専攻の学生は、普段の実習では一般の方々と話す機会がないため、よいコミュニケーションの実践になり、また、看護学生と検査学生と一緒に実習することもないため、チーム医療の実践にも繋がったと思います。参加された住民の皆様からも好評であり、学生からも普段の実習より面白かったとの声がありました。今後もこのような企画を継続していければと思います。



病態検査学講座  
助教 佐藤 研吾



リハーサル風景



学生による参加者への説明



筋肉エコー風景



集合写真

## 人材育成

### 認知症予防が学べる日本初の 大学院コース

日本に認知症は462万人、認知症予備軍は400万人と報告され、認知症は国家戦略として取り組むべき大きな課題となっております。認知症は、医師のみならず看護師、臨床検査技師等のすべての職種が対応することが求められております。特に、認知症予防対策がこれから重要とされ人材育成が急務であります。そこで、鳥取大学医学部保健学科では認定認知症領域検査技師および認知症予防専門士の育成を目指す大学院のコースを作りました。平成28年度4月よりオープンし、認知症予防学特論、認知症予防学演習を開講します。日本認知症予防学会や日本臨床衛生検査技師会と連携して、認定認知症領域検査技師および認知症予防専門士の資格が取れるようにしております。日本認知症予防学会や日本臨床衛生検査技師会が合同で開催する認定認知症領域検査技師講座で認知症診療に必要な検査技術を実地に研修する機会を作っております(写真)。

認知症予防が系統的にしっかりと学べるのは本邦で鳥取大学医学部保健学科だけです。認知症および認知症予防に関心のあるかたは、是非鳥取大学医学部保健学科で学んでください。



生体制御学講座  
教授 浦上 克哉



認定認知症領域検査技師講座

## 表彰

### 網崎孝志教授 平成27年度科研費審査委員表彰 受賞



科学研究費補助金(科研費)は、文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」(研究者の自由な発想に基づく研究)を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」で、その審査は、公正・公平な審査が行われるよう、第1段階審査(書面審査)と第2段階審査(合議審査)の2段階のピア・レビューにより行われています。

独立行政法人日本学術振興会では、毎年審査の検証を行い、科研費の審査業務において、「有意義な審査結果を付した審査委員」を表彰しています。平成27年度は約5500名の第1段階審査委員の中から189名が選ばれ、本学医学部保健学科生体制御学講座の網崎孝志教授がその功績に対し表彰されました。なお、網崎教授は、平成23年度に引き続き、今回が2度目の表彰になります。



# 研究紹介

## 情報通信技術を応用した在宅酸素療法

酸素吸入が必要な患者さんに在宅療養のため在宅酸素療法が行われています。酸素供給源として酸素濃縮器が利用されます。在宅酸素療法を受けている患者さんの大多数は、慢性呼吸器疾患による慢性呼吸不全があります。自宅で酸素吸入することで、生命予後が改善しますが、なるべく長時間酸素吸入しなければ十分な効果が得られません。従来の酸素濃縮器では患者さんが、適切に使用しているか分かりませんでした。

私達は企業と共同して、この点を解決しました。まず、生体情報と機器情報を統合する仕組みを作成しました。患者さんが酸素濃縮器を利用すると、酸素吸入の流量が自動記録されます。適時、患者さんは血液中の酸素飽和度を専用のパルスオキシメータを使用して自己測定します。パルスオキシメータは体の中の酸素濃度を示す酸素飽和度を簡便に測定可能な装置です。これら2つの情報を統合すれば、酸素吸入の使用時刻帯や低酸素の有無などが明らかになります(図1)。さらに、情報通信技術(ICT)を応用した遠隔モニタリング(図2)で得られた測定情報を医療スタッフが、いつでも確認できる世界で初めての新しいシステムにしています。現在、全国の医師に利用していただいています(図3)。遠隔モニタリング(tele-monitoring)は、インターネットの発展に伴って実現できた新しい医療手段です。概念的には遠隔医療(tele-medicine)に含まれます。健康保険が適用され診療報酬が認められれば、急速に普及すると思われます。

現時点の決まりとして、在宅酸素療法を受けている患者さんは1ヶ月に1回、必ず検査のために医療機関を受診しなければいけません。しかし、患者さんにとって通院は、かなりの負担になっています。私達が開発した「遠隔モニタリングを応用した在宅酸素療法」を利用すれば、病院での検査と同等の情報をいつでも得られますので、通院間隔を延長することも可能です。内閣府の規制改革会議の議題として診療報酬適応の検討もいただいています。

新しい医療機器の開発で患者さんに役立つ医療に貢献できたらと考え、産学連携で研究を行っています。(内閣府規制改革会議ホームページ)

<http://www8.cao.go.jp/kisei-kaikaku/kaigi/meeting/2013/wg3/kenko/150305/agenda.html>



病態検査学講座  
教授 鯉岡 直人



図1. 酸素濃縮器の機器情報と患者さんの生体情報として脈拍数、酸素飽和度測定結果の統合



図2. 遠隔モニタリングの仕組み  
医療機器に通信カードを装着し、作動状況や生体情報をクラウドシステムを構成するサーバーに保存  
(鯉岡直人, 他, 在宅酸素療法の展望, 呼吸と循環 60:759-768, 2012, より引用).

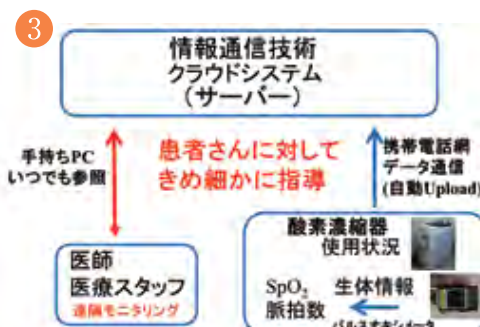


図3. 在宅酸素療法の遠隔モニタリング

## 地域志向教育研究事業における教員の教育・研究活動 (平成25～27年度)

### 運動器健診の実施及び

### ロコモティブシンドロームスクリーニング機器と

### 運動器悪化予防プログラムの開発

### －予防医学的観点から取り組む地域での実践教育－



主任研究者 基礎看護学講座 教授 萩野 浩

分担研究者 鳥取大学医学部附属病院 リハビリテーション部 松本 浩実

我々は平成26年度より鳥取県西部地区において“足腰いきいき！ロコモ健診”を開始しました。本事業は調査研究だけでなく、住民さんに運動器の健康について考えていただくためのよい機会となり、さらに学部生、大学院生も調査、研究に参加することで、地域の保健医療を学ぶ教育の場ともなっています。

鳥取県日野町では町の特定健診及び後期高齢者健診時に合わせて本健診を開催しており、骨量測定、筋肉量測定、姿勢評価、歩行速度などを計測し、それらの結果を受診者すべてに、検査結果に応じたコメント付きで郵送しています。平成26年度からのロコモ健診延べ参加人数は460名となり町民の約3名に1名が参加する健診事業へと発展しました。鳥取県米子市でも米子市長の推薦を得て、尚徳地区地域包括支援センターと共同で本健診を年に2回実施しています。

今後、研究結果に対応したロコモスクリーニング機器や予防運動方法を開発し、地域住民さんの自己管理行動の促進を目指す介入を実施していく計画にあります。今後、さらに地域貢献支援事業にふさわしい活動に発展すると考えています。



### 住民の乳がん検診受診率向上に向けた 包括的プログラムの作成



主任研究者 基礎看護学講座 講師 栗納由記子

分担研究者 基礎看護学講座 教授 深田 美香

江府町総合健康福祉センター福祉保健課の保健師の方とともに江府町の乳がん検診受診率向上に向けた取り組みを行っています。現在行われている町の乳がん検診の状況をふまえ、住民の方々の乳がんに関する考え方や乳がん検診の受診状況や乳がん検診の受診環境に対する希望などについて、江府町の乳がん検診に関する実態調査を行いました。その結果、乳がん検診の受診経験のある人と今まで乳がん検診を一度も受けたことのない人の傾向の概要が明らかになりました。そこで、結果をもとに住民の方々に対して、どのようなアプローチが乳がん検診受診行動につながり、乳がん検診の啓発活動として効果的に実施できるのかについて検討を重ねつつある段階です。今後も引き続き江府町の保健師の方々と協働し、乳がん検診の受診率向上に向けた有意義な取り組みを推進していきたいと思っています。

## 深海魚ノロゲンゲ抽出物で 三次元細胞塊（スフェロイド）をつくる

生体制御学講座 教授 二宮 治明

ここ数年、鳥取県産業技術センターとの共同研究で、深海魚ノロゲンゲ(図1)の抽出物を用いた三次元細胞培養法の開発に協力してきました。生体組織内では、全ての細胞は立体構造の中で極性を持って存在し、機能しています。三次元細胞培養は、このような生体内の状態をできるかぎり自然に近い状態で再現することを目的として発展してきた技術です。培養は乳動物細胞を凝集させ、三次元の細胞塊(スフェロイド)を形成する方法はいくつかあり、正常細胞による組織形成過程の研究、がん細胞による腫瘍形成過程の研究など、多方面で応用が期待されています。

産業技術センター食品開発研究所バイオ技術科では、新規三次元培養素材の探索を行う中で、ノロゲンゲのゼラチン状皮下組織に着目し、その抽出物には、培養は乳動物細胞に対してスフェロイド形成を誘導する活性があることを見出しました(図2)。ノロゲンゲ抽出物によるスフェロイド形成技術は、既存の方法と比較していくつかの利点を持ちます。第一に、その操作が簡便なことであり、細胞の播種時に抽出物を培養液に添加するだけでよく、特殊な機材、手法は不要。第二に、原材料費が無いに等しいこと。ノロゲンゲは日本海近海でのズワイガニ漁で混獲されるが、市場価値がないことから廃棄されています。産業技術センターでは既に、この抽出物を商品化したバイオベンチャー(アグセル研究所)が設立されています。

1

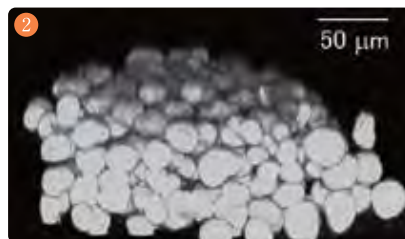


図1. 深海魚ノロゲンゲ

図2. HepG2細胞の三次元培養ノロゲンゲ抽出物5%の存在下で24時間培養し、細胞核を染色した。共焦点レーザー顕微鏡により上下方向の連続断面画像を取得し、3Dに再構築したイメージ。

## シミュレーションを用いた認知症教育プログラム

成人・老人看護学講座 教授 山本 美輪

「シミュレーションを用いた認知症教育プログラム」は、平成26年よりCOC事業として日南町で始めさせて頂き、今年度は地域志向教育研究事業として3年目を迎えました。私は、平成25年10月よりこの鳥取大学医学部保健学科へ着任したので、この事業は鳥取大学教員として日南町の皆さんとの“歩み”そのものです。

この「シミュレーションを用いた認知症教育プログラム」は、2部構成で、第1部は、“高齢者体験”を行うことで加齢に伴う身体的変化を理解し、認知症高齢者への包括的理解へつなげる。第2部は“シナリオゲームを用いた認知症ケア”をシミュレーションで経験することで、認知症高齢者への具体的な関わり方・ケアを理解する、で構成されています。そして、第1部“高齢者体験”研修会は、日南病院、社会福祉法人あかねの郷、にちなん町民大学、日南町役場研修会、日南小学校等で約217人の方に体験して頂き「高齢者への接し方を考え直す機会となった」等のご意見を頂きました。また第2部“シナリオゲームを用いた認知症ケア体験”は、今年度、日南病院のスタッフ83人



に体験して頂き「ゲームで認知症ケアが体験できるので楽しくできた」等、ご意見を頂き次年度も継続させて頂ける予定となっています。

今後も、日南町の皆様のご協力に感謝しながら、この地域志向教育研究事業が地域住民さんと共に鳥取大学が歩んでいけるよう努力していきたいと思っております。

# 地域志向教育研究事業における教員の教育・研究活動 (平成25～27年度)

## 超音波診断装置による 高齢者筋年齢自動解析プログラムの開発

病態検査学講座 教授 廣岡 保明

この教育研究プログラムの目的は、(1)筋年齢の指標となる筋力を携帯型の超音波診断装置(以下、エコー)を用いて自動解析するプログラムを開発する、(2)保健学専攻大学院生が実際に筋肉エコーを行い、超音波検査技術や被検者とのコミュニケーション能力等の向上を目指した臨床的教育を行う、等です。下肢に器質的疾患のない健康者ボランティアを対象に、大腿直筋に対してエコー検査を行い、種々の因子(厚さ、面積、筋硬度、筋輝度など)を測定しました(図1)。

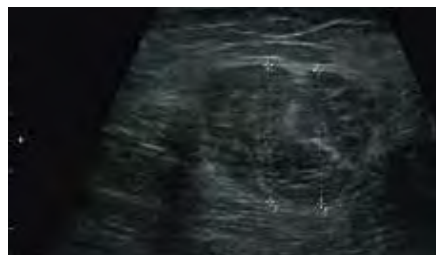


図1.下肢エコーによる筋評価(左:測定風景、右:実際のエコー画像)

エコーによる大腿直筋測定の結果、実際の筋力および年齢は、男女ともに筋肉の収縮時の大腿直筋の厚さと最も相関しました(図2)。さらに、年齢と筋力も相関しました。また、大学院生のエコー技術の向上、被験者との良好なコミュニケーションが可能でした。大腿直筋の筋厚の測定により、各年齢における適正な筋力の評価ができる事がわかりました。今後、この結果を基に筋力低下が疑われる方に、早期の介入が可能と思われました。

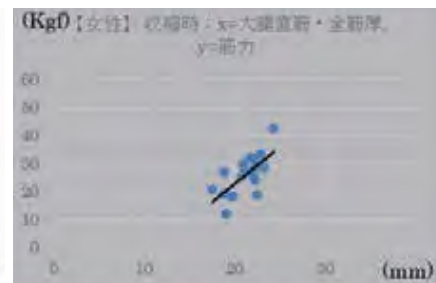
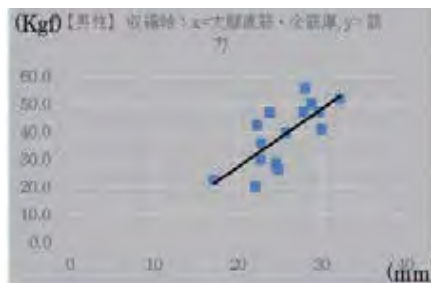


図2.大腿直筋の筋力と筋厚(左:男性、右:女性)

## アレスコ・ガーデニング・クラブ(AGC)の活動

アレスコ・ガーデニング・クラブは、保健学科の学生・教職員がいる建物の名称が、アレスコ棟と言われていることから、「建物周辺を花で飾りましょう!」という名目で名付けられました。廣岡学科長を会長として、平成24年の秋から、毎年春と秋に花の植え替え作業を学生・教職員の有志で行っています。自分たちで園芸用の土に肥料を混ぜて、プランターに花の苗を植えています。花の組み合わせは、植える方の好みですので、プランターによって様々です。夏のオープンキャンパスや秋の大学祭、3月の医学部卒業式にも彩りをそえています。

満開の花で、みなさんの心の癒やしになってくれたらと思います。





# 平成27年度 卒業研究演題一覧

## 基礎看護学講座

- 1.日常的なケアの中で患者のストレスを軽減できる看護師の関わり
- 2.骨粗鬆症患者における治療実態とその改善のための援助に関する研究
- 3.アロマオイルを使用した足浴のリラックス効果
- 4.緊急手術を受ける患者家族のニーズについて文献検討 ーニーズを満たす効果的な家族看護ー
- 5.脳卒中患者の障害受容過程に関わる影響要因の検討
- 6.遺伝性疾患患者とその家族の遺伝カウンセリングでの要望と看護職者の役割

## 成人・老人看護学講座

- 1.高齢者擬似体験による医療従事者の認知症高齢者理解の主観的・客観的評価
- 2.高齢者施設職員の死生観に関する研究
- 3.がん化学療法を受けているがん患者のストレス・コーピングに関する文献的研究
- 4.看護学生のがんのイメージと死生観に関する研究
- 5.2型糖尿病患者のセルフケアの促進因子に関する研究 ー文献レビューによる知見ー
- 6.意識レベルの回復に効果的な刺激方法に関する文献検討
- 7.集中治療室に入室している患者家族の思いに関する研究 ー文献検討から看護支援を探るー

## 母性・小児家族看護学講座

- 1.長期入院中の幼児の問題行動の特徴について
- 2.長期入院患児へ付き添う保護者の家族機能の特徴について
- 3.長期入院患児の問題行動と家族機能の関係について
- 4.入院と愛着形成の関連に関する看護研究
- 5.月経痛の鎮痛薬をどう選ぶ? ー年齢・体質・症状を考慮した使用方法の検討ー
- 6.初産婦の母乳育児支援を通して学んだこと ー継続的に援助していくことの大切さー
- 7.不妊治療を選択した女性が抱く思いに関する文献レビュー
- 8.発達段階を考慮した幼児への健康教育の方法と効果 ー手洗い指導の実施を通じた検討ー
- 9.ペリネイタル・ロスが両親に与える影響
- 10.女子大生における食生活と月経随伴症状及びその因子の関連について
- 11.女子大学生におけるストレス状況と月経前症候群との関連性について
- 12.看護学生における睡眠と月経随伴症状の関連性について

## 地域・精神看護学講座

- 1.家族介護者の身体的・心理的QOLに影響を及ぼす要因に関する文献検討
- 2.より良い退院支援を行うための“連携”に関する文献検討
- 3.大学病院の看護職種におけるてんかんの知識、経験と技術の現状について
- 4.慢性疾患に罹患している親をもつ看護学生の有用だと感じた関わりの体験
5. hypertension 学習会を通じた地域での効果的な健康教育に関する研究 ー家庭血圧測定習慣の確立を取り入れた hypertension 学習会の効果の検討(第一報)ー
6. hypertension 学習会を通じた地域での効果的な健康教育に関する研究 ー中山間地域における hypertension 学習会参加者の行動変容に影響する要因の検討(第二報)ー

## 生体制御学講座

- 1.NPC1-Like1 依存性コレステロール輸送におけるORP10の役割
- 2.MTH1 (酸化ヌクレオチド分解酵素) におけるアミノ酸プロトネーション解析
- 3.最初期遺伝子発現誘導と脳内分布
- 4.心拍変動解析による「アロマセラピー」「音楽療法」の検討

## 病態検査学講座

1. 三次元超音波診断装置による胃内容物の評価
2. 経頭蓋磁気刺激による中枢運動伝導時間の基礎的検討
3. プロックリー茎の腸管免疫に対する影響についての検討
4. 真菌性敗血症を併発した剖検例
5. *Achromobacter xylosoxidans* の分離同定方法の考案
6. 環境分離 *Achromobacter xylosoxidans* の薬剤耐性パターン
7. PCR法を用いた肉種鑑別

# 平成28年度 学年暦

## 鳥取キャンパス (1年次のみ)

事 項	月 日
学年開始(前期開始)	4月 1日(金)
春季休業日	4月 1日(金)～10日(日)
全学共通科目説明会	4月 1日(金)
各学部新入生オリエンテーション	4月 7日(木)
入学式・全学新入生オリエンテーション	4月 8日(金)
前期授業開始	4月11日(月)
水曜日の授業を振替実施	5月30日(月)
鳥取大学記念日	6月 1日(水)
前期定期試験	8月 2日(火)～8月 8日(月)
予備日	8月 9日(火)・8月10日(水)
夏季休業日	8月11日(木)～9月30日(金)
前期終了	9月30日(金)
後期開始	10月 1日(土)
後期授業開始	10月 3日(月)
金曜日の授業を振替実施	12月20日(火)
冬季休業日	12月23日(金)～1月 4日(水)
月曜日の授業を振替実施	1月12日(木)
大学入試センター試験準備による休講	1月13日(金)
後期定期試験	2月 3日(金)～2月 9日(木)
予備日	2月10日(金)・2月13日(月)
卒業式	3月20日(月)
春季休業日	3月21日(火)～3月31日(金)
学年終了(後期終了)	3月31日(金)

## 米子キャンパス (2年次以上)

事 項	月 日
学年始(前期始)	4月1日(金)
進級生オリエンテーション	3月31日(木)
前期授業開始	4月1日(金)
鳥取大学記念日	6月1日(水)
前期授業及び試験終了	8月19日(金)
夏季休業日	8月20日(土)～9月30日(金)
前期終了	9月30日(金)
後期開始	10月1日(土)
後期授業開始	10月3日(月)
冬季休業日	12月29日(木)～1月3日(火)
後期授業及び試験終了	2月24日(金)
卒業式	3月3日(金)
春季休業日	2月25日(土)～3月31日(金)
学年終了(後期終了)	3月31日(金)

都合により変更する場合があります。

全学的休講措置により授業回数が不足する場合には、予備日を設け、補講を実施する。

# 平成28年度 学級委員

## 看護学専攻

入学年度	学 年	氏 名	所属講座
平成28年度	1年	吉岡 伸一 教授 / 徳嶋 靖子 助教	地域・精神看護学
平成27年度	2年	南前 恵子 教授 / 池田 智子 講師	母性・小児家族看護学
平成26年度	3年	山本 美輪 教授 / 西尾 育子 講師	成人・老人看護学
平成25年度	4年	深田 美香 教授 / 奥田 玲子 講師	基礎看護学

## 検査技術科学専攻

入学年度	学 年	氏 名	所属講座
平成28年度	1年	北村 幸郷 教授 / 下廣 寿 講師(予定)	病態検査学
平成27年度	2年	二宮 治明 教授 / 仲宗根 眞恵 助教	生体制御学
平成26年度	3年	廣岡 保明 教授 / 中川 真由美 講師	病態検査学
平成25年度	4年	網崎 孝志 教授 / 藤原 伸一 准教授	生体制御学

両専攻とも1年生については、上記保健学科教員以外に、湖山キャンパスの教員数名が学級委員として学生の指導・相談の任にあっている。

# 平成26年度 後援会事業報告

## 1. 教育助成

### 入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生合宿研修  
[平成26年4月19日～20日]

### 大学説明会関連

- オープンキャンパス  
[平成26年8月2日]

### 教育関連

- 新入生ふれあい朝食会  
[平成26年4月9日～15日]
- 2年次学生と教員と懇談会  
[平成26年4月23日]
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金へ助成

## 2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

## 3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

## 4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

## 5. 文化行事援助

- 錦祭

## 6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

# 平成27年度 後援会役員名簿

役職名	氏名	専攻・年次
会長	北川 友之	検査技術科学専攻4年
副会長	關 一恵	看護学専攻4年
副会長	松浦 裕美	検査技術科学専攻3年
常任理事	松本 繁樹	看護学専攻3年
理事	永井 友子	検査技術科学専攻4年
理事	米江 慶典	看護学専攻3年
理事	松波 徳仁	看護学専攻3年
理事	船崎 信博	看護学専攻3年
理事	恩田 賢一	検査技術科学専攻3年
理事	田澤 直実	検査技術科学専攻3年
監事	森吉 まゆみ	看護学専攻4年
監事	小乾 敬介	検査技術科学専攻2年

役職名	氏名	役職指定
顧問	廣岡 保明	保健学科長
顧問	山本 美輪	医学部学生生活委員会委員(看護)
顧問	笠城 典子	医学部学生生活委員会委員(看護)
顧問	浦上 克哉	医学部学生生活委員会委員(検査)
顧問	藤原 伸一	医学部学生生活委員会委員(検査)
幹事	前田 佳哲	学務課長
幹事	橋井 義文	教育支援専門職

## 平成27年度 後援会事業計画

### 1. 教育助成

#### 入学関連

- 入学式
- 新入生オリエンテーション
- 新入生合宿研修  
[平成27年4月18日～19日]

#### 大学説明会関連

- オープンキャンパス  
[平成27年8月1日]

#### 教育関連

- 新入生ふれあい朝食会  
[平成27年4月8日～14日]
- 2年次学生と教員と懇談会
- 優秀学生表彰
- 看護学専攻・検査技術科学専攻へ助成
- 全学共通教育協力金へ助成

### 2. 国家試験対策

- 看護師等国家試験対策模試
- 臨床検査技師国家試験対策模試

### 3. 就職対策

- 教員による病院等の就職先への訪問

### 4. 医学部国際交流助成

- 国際交流協定校との交流

### 5. 文化行事援助

- 錦祭

### 6. 後援会運営

- 保健学科広報「アレスコ」発行
- 後援会役員会

## 編集後記

鳥取大学医学部保健学科広報誌アレスコ(ALESCO)第14号を発刊いたしました。

今号の編集に当たり、保健学科長には多岐にわたるご助言をいただきました。その熱い思いが保健学科長挨拶「保健学科の使命とは」に込められております。また今号には、保健学科在籍の教職員や卒業生から原稿を多数お寄せいただきました。保健学科に在籍する教職員数(約60名)や学生数(約500名)を考えますと、保健学科について発信すべき情報はまだまだあるに違いないと確信しており、広報誌アレスコが、引き続きその一翼を担うことができばと考えております。

ささやかではございますが、保護者および関係各位の皆様には、アレスコの1つ1つの記事を通じて、保健学科の「成長・発展(アレスコ)」の姿、ご子息、ご息女の学生生活の一端を感じ取っていただければ幸いに存じます。

保健学科広報委員長 藤原 伸一

[発行責任者]鳥取大学医学部保健学科後援会・鳥取大学医学部保健学科広報委員会

[発行所]鳥取大学医学部保健学科(〒683-8503 鳥取県米子市西町86番地)

[発行年月]平成28年2月